

科目名 家庭基礎

単元名 A 人の一生と家族・家庭及び福祉

内容のまとめり (3) 子どもの生活と保育

1 単元の目標

- (1) 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもを取り巻く社会環境、子育て支援について理解するとともに、乳幼児と適切にかかわる基礎的な技能を身につける。
- (2) 子どもを産み育てることの意義について考えるとともに、子どもの健やかな発達のために親や家庭及び地域や社会の果たす役割の重要性について考察することができる。
- (3) 様々な人と協働し、よりよい社会の実現に向けて子どもの健やかな成長を支えるために、課題の解決を主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。

2 単元の評価基準

知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもを取り巻く社会環境、子育て支援について理解しているとともに、地域の子育てに関わる現状や課題を把握し、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身につけている。	子どもの健やかな発達のために親や家庭及び地域や社会の果たす役割の重要性を踏まえ、地域の子育てに関する課題を見出し、課題解決に向けた自らの関わり方を考え、具体策を提案できるなど、課題を解決する力を身につけている。	よりよい社会の構築に向けて、様々な人々と協働し、子どもの生活と保育に関する課題の解決策を主体的に考えたり、振り返って改善したりして、自らが地域社会の一員として子育ての充実向上のために実践しようとしている。

3 指導と評価の計画 (9時間)

1. 子どもの育つ力を知る 1時間
2. 命を育む 1時間
3. 子どもと関わる 3時間
4. 子どもとの触れ合いから学ぶ 2時間
5. これからの保育環境 2時間

【単元全体を貫く課題】

子どもが健やかに育つ社会のために、私たちは地域とどう関わり、共に行動できるだろうか。

時間	【ねらい】・学習活動	重点	記録	備考（・は評価基準（ ）は評価方法）
1	<p>子どもの育つ力を知る</p> <p>【ねらい】子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の発達を理解し、どのような支援が必要か考える。 ・遊びによって子どもがどのような発達をしていくかを知り、子どもは遊びを通して成長することを理解する。 	知 ① 思 ①	☆ ○	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の心身の発達について理解している。（定期考査） ・健やかな成長のために保育者としてどのような関り方をするとよいか考えることができる。（行動観察・ワークシート）
2	<p>命を育む</p> <p>【ねらい】命の誕生、子どもを産み育てることの責任を実感する。</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> ・たまご赤ちゃんに命名し、ペア（基本）で2週間協力しながら子育てする計画を考える。 ・たまご赤ちゃんの取り扱いと責任感について話し合う。 ・保育日誌の記入方法と子育て上のルールを確認する。 	思 ②	○	<ul style="list-style-type: none"> ・命の誕生や子育てに関心を持ち、健やかに子どもを育てるために計画を立てることができる。（行動観察・ワークシート）
3 4 5	<p>子どもと関わる</p> <p>【ねらい】子どもの生活習慣や衣食住について理解する。</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> ・6歳までに身につけることを生活習慣と社会的習慣両面で考える。 ・子どもの衣食住の基本的なことを知り、保育者が配慮すべきことを知る。 ・現代の子育ての環境の変化や課題について理解する。 ・子育て支援について理解する。 ・飛騨地区の子育て支援の現状を知り、課題を見つける。（飛騨市子育てガイドブック） ・たまご赤ちゃんとお別れし、2週間を振り返り、ペアで交流する。 ・たまご赤ちゃんを育てた体験や現代及び飛騨地区の子育ての問題点を踏まえて、ペアでインタビュー内容を考える 	知 ② 知 ③ 思 ③ 思 ④	☆ ○ ☆ ○	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生活について理解している。 ・子どもの健康や安全を管理するために保育者の役割を理解している。（定期考査） ・現代の子育ての環境の変化や課題について理解している。 ・子育て支援について理解している。（定期考査） ・自分自身の将来と照らし合わせながら、どのような支援があれば子育てがしやすいか考えることができる。（行動観察・ワークシート） ・子どもを産み育てることの意義を考えることができる。（行動観察・ワークシート）

6 7	<p>子どもとの触れ合いから学ぶ 【ねらい】乳幼児の保護者にインタビューし、子育ての大変さややりがいを聞きながら子どもとの触れ合いや関わり方の観察をする。</p>	<p>知 ④</p> <p>態 ①</p>	<p>○</p>	<p>・子どもを産み育てることの意義ややりがい、課題を理解している。 (行動観察・ワークシート)</p> <p>・積極的に保護者や乳幼児と関わろうとしている。(行動観察)</p>
8 9	<p>これからの保育環境 【ねらい】・子どもが健やかに育つ社会の実現のために、考えて実践しようとする。</p>	<p>態 ②</p> <p>思 ⑤</p> <p>思 ⑥</p>	<p>○</p> <p>○</p>	<p>・他の生徒のインタビューにおける気づきを主体的に自分のものにしようとしている。(発表)</p> <p>・子育てを自分ごととして捉え、自分たちができる改善案をだすことができる。(行動観察・ワークシート)</p> <p>・子どもが育つ環境にどのような課題があるか考え、自らが、地域社会の一員としてどのように子育てにかかわっていくことができるのか考え、提案できる。 (ワークシート・発表)</p>

4 学習指導案

科目名	家庭基礎	指導クラス	1年 A組
単元名	子どもの生活と保育（9時間）	使用教科書	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）
本時の主題	これからの保育環境（8時間/9時間）		
指導観	本校のある飛騨市では、少子高齢化および人口減少が深刻な課題となっている。令和5年の出生数はわずか90人であり、1年間で100人以上の人口が減少している。これは、地域の特長可能性に大きな影響を及ぼす問題である。本授業では、前時に実施した保護者インタビューでの気づきや変化をクラスで共有し、子どもを産み育てることの意義ややりがい、そして課題について理解を深める。さらに、地域の子育てに関する課題に対して、自分たちがどのように関わることができるかを考え、主体的に行動する態度を育てる。また、地域社会を「自分たちの手で創る」という視点を持ち、自身のライフプランについても主体的に考える機会を設ける。		
本時の目標	保護者へのインタビュー結果を共有し、地域の子育ての課題に対して自分たちがどうかわることができるかを考える。		
過程	指導内容	生徒の学習活動	評価について
導入 5分	・本時の目標 確認	・本時の目標を確認する。 【本時の目標生徒に提示するもの】 飛騨市で楽しく子育てができるために、 私たちにできることは何か考えよう。	
展開 40分	インタビュー 結果の共有	<p>インタビューでの気づきカードを読み、各自リアクションシールを貼り、自分の中で最も重大だと思ったカード（MSC）を決めて印を貼る。</p> <p>・MSC (Most Significant Changes) ＝じぶんにとって最も重大な変化 共感した、すごい、自分にはない考えなどが動いたものにシールを貼る。</p> <p>グループで全員のMSCを並べて、なぜそれを選んだのかを発表し、その中からグループのMSC話し合いで決め、発表する。</p> <p>・自分がMSCに選んだ理由や背景をそれぞれが話し、グループのMSCを決める。</p>	<p>評価基準【 態 】 他の生徒のインタビューでの気づきを主体的に理解しようとしている。</p> <p><評価方法>発表 Aの例 なぜ、グループでのMSCに選んだのか、自分たちのインタビューでの気づきと比較したり関連付けたりして発表できている。</p>
	飛騨地区子育ての課題にどうかかわるか	<p>グループで地域の子育ての課題を話し合う。</p> <p>地域の子育ての課題について自分たちがどう関わられるかを考える。</p> <p>・インタビューで聞いた困りごとの現状を具体的にあげる。 ・具体的に上がった困りごとは何が原因で、どうすると理想に近づくのか改善策を考える。</p>	<p>評価基準【思考・判断・表現】 子育てを自分ごととして捉え、自分たちができる改善策をだすことができる。</p> <p><評価方法>ワークシート 行動観察 Aの例 ・困りごとの現状を把握し、その原因を考え、理想に近づくにはどうしたらよいか自分たちにできる改善策の意見を出し合うことができる。</p>
まとめ 5分	・本時のまとめ	・本時を振り返り自己評価をする。	・本時のまとめをする。

工夫している点

<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューで特に印象に残ったこと、感じたこと、考えたことを自分だけでなく、みんなでも共有できるようにした。 ・自分がなぜそのカードを選んだのかをグループのメンバーに伝えるために表現する場面を作った。 ・子どもの生活と保育分野の学習で学んだこと、経験したこと考えたことなどを用いて考察できるよう工夫した。 ・インタビューで子育ての困りごとの現状を知り、理想に近づくためには何ができるのか考えることで課題解決学習ができるようにした。

5 成果と課題

評価基準【 態 】

他の生徒のインタビューでの気づきを主体的に自分のものにしてしている。

	学習活動における 具体的評価規準 (B)	「十分満足できる」と 判断される状況 (A)	「努力を要する」と 判断される状況 (C)
評価	・他の生徒のインタビューでの気づきに興味をもち、自分の気づきと比較することができる。	・他の生徒のインタビューでの気づきに興味をもち、自分の気づきと比較してたり関連付けたりできる。 ・そのように感じた背景を考えることができる。	・他の生徒のインタビューでの気づきに興味がもてない。
生徒の状況	・自分の気づきと比較して共感できる考えや、全く異なる考えに興味をもっている。	・自分の気づきと比較して共感できる考えや、全く異なる考えに興味をもち自分の家族や育てられけ環境と関連付けて考えることができている。	該当なし
記入例	・子育ては自分にはできないと思っていたけれどインタビューを通して幸せが大きいと聞いて興味をもった自分の思いと重なった。(64%)	・子育ての大変さがわかってからこそ親に感謝したい。だから恩返ししたいし、そう子どもに思ってもらえるような子育てがしたい。(33%)	

評価基準【思考・判断・表現】

子育てを自分ごととして捉え、自分たちができる改善案をたすことができる。

	学習活動における 具体的評価規準 (B)	「十分満足できる」と 判断される状況 (A)	「努力を要する」と 判断される状況 (C)
評価	・困りごとを具体的ことらえ、改善策を考えることができる	・困りごとの現状を把握し、その原因を考え、理想に近づくにはどうしたらよいか自分たちにできる改善策を考えることができる。	・困りごとを捉えることができない。 ・改善策を考えることができない。
生徒の状況	・インタビューした困っていることを振り返り、改善策を考えている。	・保護者がどんなことに困っているのか、どうなることが理想なのかを考え、自分たちが関わるることができる改善策を考えている。	該当なし
記入例	・ママ友と交流できるブースを作る ・子育て支援の情報を書いたポスターを作る(69%)	・自分の時間がなかったり、イヤイヤ期に手を焼いている保護者に少しでも休んでもらうために、高校生で幅広い年齢に楽しんでもらえるイベントを考える。(31%)	

授業後の課題と改善

<ul style="list-style-type: none"> ・カードを用いての授業は視覚に訴える、会話を引き出すという点で効果的であったが、作成の手間を考えると今後継続していくには現実的ではない。来年度以降継続して授業を行うためにはメタモジを使用したい。 ・子育ての課題については課題の設定が難しく、課題を設定するためのプロセスを他の単元でも繰り返し学ぶ必要がある。他教科とも連携し学校全体で問いの立て方を学ぶということができるとよい。 ・MSCの取り組みを主体的に学習に取り組む態度で評価したが、思考・判断・表現の観点でワークシートの記述において評価した方が評価しやすと感じた。来年度は変更したい。また、2つ目の評価は9時間目の評価と重なるため、9時間目に評価するようにしたい。
--

家庭基礎	これからの保育環境
No.22	組 番 名前 ()

【学習目標】

保護者へのインタビュー結果を共有し、地域の子育ての課題に対して自分たちがどう関わることができるか考える。

【ワーク1】MSC (Most Significant Changes) =じぶんにとって最も重大な変化を選ぼう

①子育てインタビューでの気づきカード読み、各自リアクションシールを貼ろう。

共感した：キラキラ♥、自分にはない考え：☆

②グループで回して全部を読み終わったら自分の中で最も重大だと思ったカード (MSC) を決めての印を貼ろう。



「私のMSCは」



番号「 」

重要だと考えた・感じたフレーズ、キーワード

「

「なぜ、それを選んだのか？」



③グループで全員のMSCを並べて、なぜそれを選んだのか発表し、その中からグループのMSCを話し合いで決めよう。

「私たちのグループのMSCは」



番号「 」

重要だとグループで考えた・感じたフレーズ、キーワード

「

「なぜ、それを選んだのか？みんなで選んだ理由」グループで話し合ったことを書こう



④各グループの発表を聞いて

メモ
考えたこと、感じたことをまとめよう

【ワーク2】飛騨市で楽しく子育てができるために、私たちにできることは何か考えよう。

① 子育て中の保護者が困っていることは？ インタビューで多くの保護者が言っていたことは？



次の時間は今日の【ワーク2】で考えた②、③をグループのメンバーを変えてもちより、来年度の YCK 課外活動プログラムで実施する子育て応援イベントの企画をみんなで考えます。



② ①保護者の声×吉高生

私たちが企画するイベントを通して関わることができる子育ての課題は何だろうか？

No.19で学習した飛騨市の子育て支援の現状も含めて考えてみよう。

*【課題＝理想－現実】*①の困りごとの原因を考えてみよう

--

③ その課題を解決するためにどんなイベントが考えられるだろうか？何をしたら子育ての応援ができるかな？

